



六月十五日

石巻中一年

学年通信No.十六

編集・発行

鈴木 孝明

～ あなただがニジニいること ～

一年生の昇降口から階段を上った踊り場にある掲示板。そこに、見事な学年目標が掲げられたことは、みんなも知っていることでしょう。

あの掲示物、というかもはや作品、本当にすごくないですか？

学年目標「One piece」の文字、その背景にはパズルのピースがびっしりとつまっています。あの一枚一枚は、長い時間をかけて、級長を中心に様々な人たちが作ってくれました。並んだピースの数は、百二十四枚。この一年生のみんなの数です。粋ですね。

パズルのピースは、一方が飛び出ていると、片方がへこんでいます。はさみで切るのも一苦労だったことでしょう。色が互い違いになるよう、百二十四枚を並べるのも、大変だったことでしょう。そのピースの様子を見ていると、それがまるで、みんな自身のことを表しているように、思えてならないのです。

一つのピースのへこみを補うように、となりあうピースがつかながっている。まるで手と手を取り合うように。

また、ある詩を思い浮かべました。

ぼくがここに

まど みちお

ぼくがここに いるとき

ほかの どんなものも

ぼくに かきなつて

ここに いることは できない

もしも ゾウが ここに いるならば

そのゾウだけ

マメが いるならば

その一つぶの マメだけ

しか ここに いることは できない

ああ このちきゅうの うえでは

こんなに だいに

まもられているのだ

どんなものが どんなどころに

いるときにも

その「いること」こそが
なににも まして
すばらしいこととして

パズルのピースの一つ一つに形があって、それは、他の何ものにも変わることはできない。そのピースしか、はまらない。

あなたしか、ここにすることはできない。そして、あなたがここにいないことを、みんなが守ってくれている。かけがいのない「One piece」として。あの学年掲示は、そんなことを教えてくれているように、思えてならないのです。

みんな、あの学年目標を、その心を、大切にしていこう。級長のみんな、それに手伝ってくれた人たち。本当にご苦労様でした。そして、ありがとう。

